

令和4年度 自己評価書

学校名	和歌山市立四箇郷小学校
校長氏名	石神 和弘
作成日	令和5年1月21日

1 教育目標

心身ともにたくましく、豊かな人間性を身につけ、自ら学ぶ子供を育てる

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	豊かな心	確かな学力	健やかな体と安全の確保
指標	学校評価アンケート項目「学校は、学校の教育活動や子供の様子を保護者にわかりやすく伝えている」において、『思う方』の回答が75%を超える。	・図書室への総来室者数⇒前年度を維持 ・保護者アンケートで学校教育・生活でのルールやマナー、モラルに関する設問にて、前年度より「わからない」という回答を減らす。	県学習到達度調査の結果が県の平均を上回る。	学校評価アンケート項目「学校は、子供の安全確保・健康管理のための取組を十分行っている」において『思う方』の回答が85%を超える。
重点目標【P】	◎学校だより・ホームページの発行・更新を通して、学校の情報を発信していく。 ◎地域の方々との交流を計画的・積極的に進める。	◎図書館教育の推進を継続する。 ◎道徳教育を計画的に進める。 ◎豊かな体験活動の充実を図る。	◎子供たちの話し合い活動を重視した授業改善に努める。 ◎基礎学力の定着を目指す。	◎児童の安全確保のために、感染症及び熱中症への対策を十分に講じつつ、これまでの取組を計画的に行う。 ◎体力の向上を目指す。
取組の状況【D】	◎校長の思いや願い、学校の方針や考えを学校だよりやホームページ、地域の新聞に載せた。 ◎学校開放月間を行った。 ◎運動会や授業参観で保護者のボランティア活動を実施した。 ◎家庭科でミシンの指導補助として地域の方々を招待した。(地域先達) ◎日曜参観を行い、午前中に加え午後からも献血(育生会)を行った。	◎保護者のボランティア活動を継続した。 ◎道徳の授業を年間計画の通りに進めた。 ◎1～5年生の遠足、5年生の加太合宿、森林学習、6年生の修学旅行を実施した。	◎2年連続で国語科の研究発表を行った。 ◎一人一授業の研究授業を行った。 ◎算数の習熟度別少人数学習を5、6年生に取り入れた。 ◎放課後フォローアップを3年生まで拡大した。 ◎基礎学タイムで取り組む内容を学校で統一した。	◎夏季期間のリュック登校を可能とした。 ◎熱中症予防のためミストシャワーを導入した。(育生会) ◎月に1回の校内安全点検を実施した。 ◎年に3回の避難訓練を実施した。 ◎「みんな遊び」をクラス単位で実施した。
取組の成果と課題(評価結果【C】)	・学校評価アンケートの結果、肯定的な回答が、昨年度の78.6%から71.1%とわずかに減少した。 ・今年度は運動会や日曜参観で、保護者とともに校内の清掃活動を行うことができ、大勢の方が協力して下さいました。 ・課題としてはホームページの更新頻度を上げること、緊急時には一斉メールをさらに活用することが挙げられる。	・図書ボランティアの方々のおかげで充実した読書環境となっている。 ・例年通りの日曜参観を実施することができた。 ・今年度も保護者対象の情報モラル教室を実施することができた。 ・保護者アンケートの結果、モラルに関して「わからない」と回答した割合が前年11.8%から7.5%に減少した。	・今年度も研究発表会に向け、3人の指導主事を迎え充実した教材研究を行うことができた。また、若手教員の向上心や指導力が大いに高まった。 ・国語科で話し合いを中心とした学習がどのクラスでも行われ、質の高い授業を行うことができた。 ・5、6年生算数での習熟度別少人数学習を行うことで児童の学習意欲が大いに高まり、県の学力テストでは県平均を上回った。 ・課題としては基礎学力を一層向上させることが挙げられる。	・手洗い・換気・毎朝の健康観察を徹底することに加え、真夏の熱中症対策も行いながら感染症の拡大を防止できた。 ・授業日だけでなく夏季休業における水泳指導も行った。 ・計画的に避難訓練を実施した。 ・学校評価アンケートの結果、安全確保・健康管理の項目で、肯定的な回答が81.2%で目標を3.8%下回った。
改善方法【A】	・開かれた学校となるよう、地域の新聞への寄稿を続けること ・ホームページの更新頻度を上げること ・見守り隊の方々との懇談会をもつことに加え、情報伝達手段としてぐるりんメールに加入してもらうこと ・お食事会、夏祭りなど地域の活動に積極的に参加すること ・ラジオ体操を継続すること	・図書ボランティアと学校の図書担当者をつなぎ、学校図書館の充実に協働できる関係を築いていくこと ・感染症対策を講じた上で、体験活動を重視していくこと ・道徳の学習を計画的に実施していくこと ・引き続き、保護者対象の講座(子育て、情報モラル等)を開くこと	・研究会に授業提案することの意義を職員で共有し、今後も継続していくこと ・基礎学力向上に向け、家庭学習の内容を学校で基準を設け、定着させていくこと ・放課後フォローアップの対象をさらに広げ、回数も増やしていくこと。また、その指導者(ボランティア)を確保していくこと	・通学路における危険個所の改善に向け、育生会、自治会、行政と協力していけるよう、引き続き話し合いの機会を持つこと ・マナー化することなく感染症及び熱中症への対策を徹底していくこと ・体力の向上を目指し、体育の学習内容を見直していくこと

3 その他の課題

異年齢による児童の縦のつながりを充実させるため、児童やその保護者に対し、朝の集団登校をすることの意義を理解してもらえよう周知していくこと。また、学校もたてわり掃除、たてわり遠足など、新たな取組を模索していくこと。
--